

1 決算の概況

令和元年度 置賜広域病院企業団決算の概要

(1) 決算の概要

- ◎ 経常収支は、経常収益 161 億 99 百万円、経常費用 159 億 25 百万円、差引2億 74 百万円の黒字で、前年度より2億 23 百万円改善。総収支は、7億 58 百万円の純利益で、2億 68 百万円改善。
- ◎ 医業収支は、入院収益の増加等により、1億 97 百万円改善。医業収益は過去最高を達成。
- ◎ 基幹病院(総合病院+救命救急センター)では、入院患者数の増加に伴い医業収益が増加し、医業収支は3億 31 百万円改善。
- ◎ サテライト医療施設では、入院収益は増加したものの、外来収益の減少等により、医業収支は1億 34 百万円悪化。

(2) 令和元年度決算

(単位:百万円)

科目	企業団全体	基幹	サテライト
経常収益 A	16,199	13,973	2,226
医業収益 a	13,609	11,890	1,719
対前年	219	326	▲107
医業外収益	2,590	2,083	507
経常費用 B	15,925	13,815	2,110
医業費用 b	15,178	13,135	2,043
対前年	22	▲5	27
医業外費用	747	680	67
医業収支 C (a-b)	▲1,569	▲1,245	▲324
対前年	197	331	▲134
経常収支 D (A-B)	274	158	116
対前年	223	268	▲45
特別損益 E	484	632	▲148
総収支 D+E	758	790	▲32
対前年	268	261	7

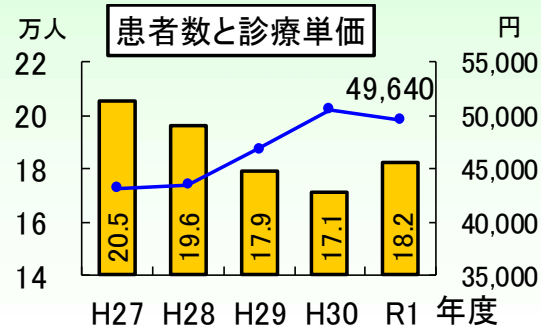
(3) 病院ごとの医業収支の概要

病院	概要
基幹病院	入院患者数の増加により、医業収支が改善
	・入院患者数の増加により、医業収益は過去最高を達成した。一方、医業費用については、職員増等により給与費が増加したものの、経費の縮減等により前年度並みとなったため、収支は前年度に比べ3億31百万円の改善となった。
長井病院	外来患者数の減少等により、医業収支が悪化
	・外来収益が減少したものの、基幹病院との連携強化により入院患者数が増加したため、医業収益はやや増加。一方、医業費用については、職員増に伴う給与費増等により増加したことから、収支は前年度に比べ37百万円悪化した。
南陽病院	新病院関連経費の増加、外来患者数の減少により医業収支が悪化
	・令和元年6月に開院した新病院の関連経費(旧病院の除却、引越等)の増加、人工透析廃止に伴う外来患者数の減少等により、収支は前年度に比べ1億2百万円悪化した。
川西診療所	経費縮減により医業収支は改善
	・患者数は増加したものの、診療単価が減少したため医業収益は減少。一方で、経費縮減等により医業費用も減少した結果、収支は前年度に比べ5百万円改善した。

2 患者の概況

(1) 入院

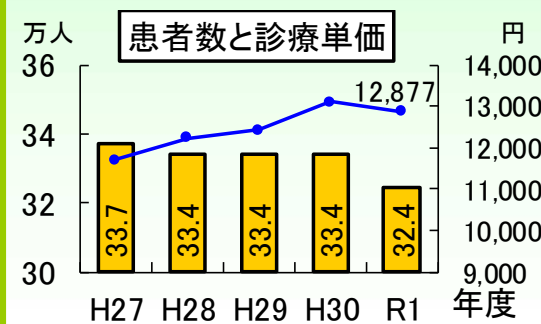
- 入院収益は、基幹病院とサテライトとの連携強化等により患者数が増加し、4億6百万円増加。
- 延患者数は182,478人で、前年度と比べ11,471人増加。
- 診療単価は49,640円。サテライトは前年度より422円増加したが、基幹病院では精神科増床等により1,403円減少。



	入院収益(百万円)		延患者数(人)		診療単価(円)	
	R1年度	対前年	R1年度	対前年	R1年度	対前年
企業団全体	9,058	+406	182,478	+11,471	49,640	▲954
基幹	8,246	+362	151,105	+10,252	54,571	▲1,403
サテライト	812	+44	31,373	+1,219	25,888	+422

(2) 外来

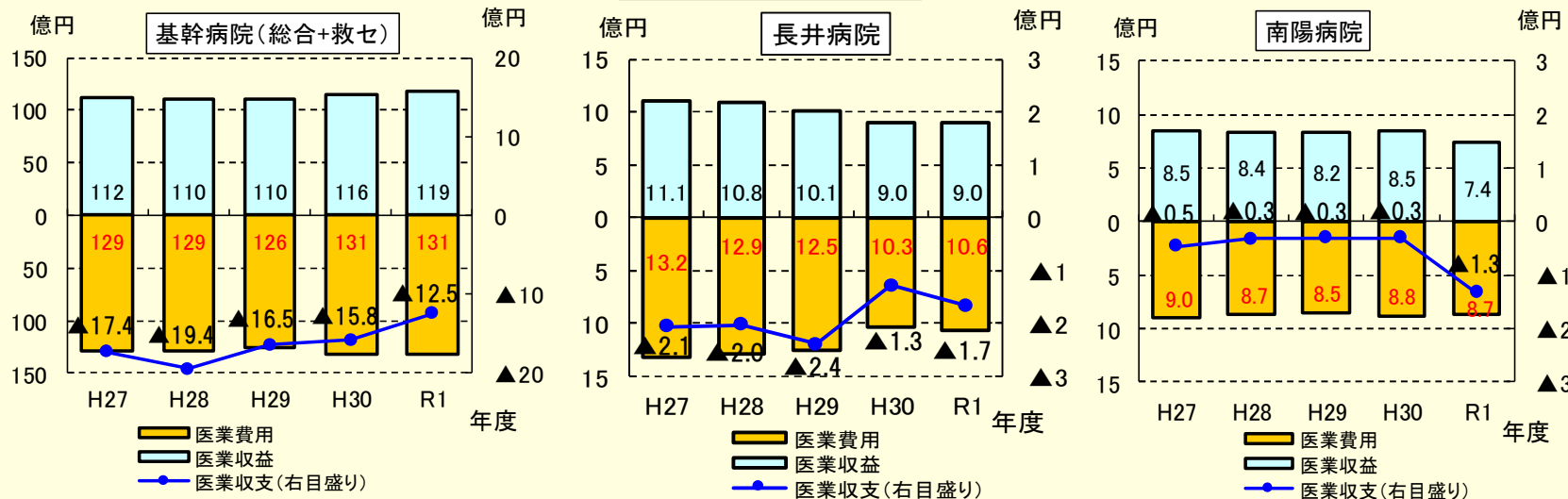
- 外来収益は、診療日数減(△4日)の影響等で患者数が減少し、2億8百万円減少。
- 延患者数は324,252人で、前年度と比べ9,988人減少。
- 診療単価は12,877円。基幹病院は120円増加したが、サテライトでは南陽病院の人工透析廃止の影響等により1,149円減少。



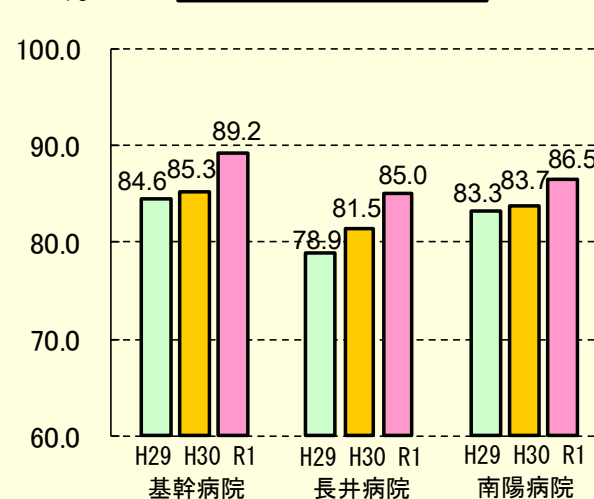
	外来収益(百万円)		延患者数(人)		診療単価(円)	
	R1年度	対前年	R1年度	対前年	R1年度	対前年
企業団全体	4,175	▲208	324,252	▲9,988	12,877	▲236
基幹	3,314	▲52	228,469	▲5,540	14,504	+120
サテライト	862	▲155	95,783	▲4,448	8,997	▲1,149

3 各指標の状況

医業収支



病床利用率(一般病床)



平均在院日数(一般病床)

